

神栖市・かすみがうら市・つくばみらい市地域プロジェクト

－OSP サポートモデルの構築－

株式会社アドービジネスコンサルタント 岡田忠

t.okada@addo.co.jp

キーワード：サポートモデル，OSS，Linux，リナックス，リユース，リサイクル，環境にやさしい

1. はじめに

平成 16 年度「オープンソースソフトウェア活用基盤整備事業(学校教育現場におけるオープンソースソフトウェアの活用に向けての実証実験)」プロジェクト、17 年度 OSP プロジェクトでの実証実験を通して、掲げられていた「数のインパクト」、「実用性の改善」、「運用負荷軽減」の課題についてそれらの実用性を凡そ確認することができた。これら 2 回の実証実験でつくば地区で実験に取り組んだチームが中心となり、今後 IT 環境を整備あるいは IT 活用の促進を図ろうとしている地域から、2つの教育事務所管轄に跨った風土のまったく異なる、神栖市立矢田部小学校、深芝小学校、かすみがうら市立志筑小学校、つくばみらい市立谷和原中学校にて Linux/OSS の実証実験を行う。

2. プロジェクト概要

(1) 概要

児童・生徒用の OSS デスクトップ環境は、3 校ともノート PC+無線 LAN 環境で、日立 IT 社製 リユース PC “Reco” を使用する(Turbolinux FUJI はプリインストール型)。また、ノート PC 導入時には、クラスルーム PC 管理システムを使用して各 PC の諸設定を行う。更に今回の 3 地域は、現行 IT 活用環境でのサポート体制が異なっていることから、それぞれの地域ごとにサポート体制を変えて運用することで複数のサポート形態の検証、運用方法の確立を行う。実証実験において作成する OSP パッケージは、今後 IT 環境の整備や IT 活用の促進を図ろうとしている地域において、Linux/OSS を導入、活用、管理ができるよう検証、作成を行う。更に実験期間中に対象校から実践事例の抽出を行い、抽出した実践事例や使用したコンテンツ、ソフトウェアなどの情報も含めた形でパッケージを作成していくことで OSP パッケージの他地域での活用促進につなげて行く。実証実験において作成する OSP パッケージは、今後 IT 環境の整備や IT 活用の促進を図ろうとしている地域において、Linux/OSS を導入、活用、管理ができるよう検証、作成を行う。更に実験期間中に対象校から実践事例の抽出を行い、抽出した実践事例や使用したコンテンツ、ソフトウェアなどの情報も含めた形でパッケージを作成していくことで OSP パッケージの他地域での活用促進につなげて行く。



図 1 プロジェクト対象地域図

(2) LinuxPC 導入台数

学校名	神栖市 矢田部小学校	神栖市 深芝小学校	かすみがうら市 志筑小学校	つくばみらい市 谷和原中学校	合 計
児童・生徒 PC	28 台	-	35 台	40 台	103 台
教職員 PC	6 台	3 台	4 台	4 台	17 台
合 計	34 台	3 台	39 台	44 台	120 台

(3) 実証実験の課題と目標

過去 2 年間の実証実験等の経験を踏まえて Linux/OSS の活用と普及・波及の促進を行うために、下記の 6 項目を目標として挙げる。

a. 「容易な導入・活用・運用の実現」

IT 化の先進地域以外の教育機関において Linux/OSS が活用可能なことを検証する。Linux/OSS を導入・活用しようとする教育機関に対し広域に適用可能な OSP パッケージの製作と検証を課題とする。

b. 「実現可能なサポートモデルの構築」

風土と管轄教育事務所の異なる地域の教育機関に対し地域に合わせたサポートを実施し検証・評価を行う。新たな企業のサポートビジネスへの参入を促進させるためにサポートモデルを構築することを課題とする。実現可能なサポートモデルを提示することで IT 機器調達においての Linux/OSS が選択肢の 1 つとなれるようにする。

c. 「教育効果のある活用事例の作成」

大学・研究機関・教育機関と連携し、Linux/OSS の活用促進を行い活用事例の拡大を行う。他地域において Linux/OSS の導入を行う際に活用できるように本実証実験の活用事例を OSP パッケージに含めることも課題とする。教職員の校務に利用できるソフトウェアの調査・検証・評価を行い OSP パッケージに含めることを目標とする。

d. 「地球環境に配慮した低価格機器の導入」

リサイクル PC を採用し導入費用の低コスト化を図ることを課題とする。リサイクル製品を活用することで、資源の再利用を含めた活動により、地球環境にやさしい取り組みを推進する。

e. 「低コスト化を図る導入・運用管理の構築」

PC 管理ソフトウェアを活用した導入作業および運用を実施することで導入作業工数、運用管理工数の軽減を目標とする。Linux/OSS の導入・運用各フェーズにかかる管理工数と非 OSS の管理工数を比較・評価を行うことを課題とする。

f. 「Linux/OSS の普及活動」

実証実験対象地域の研究会などでも Linux/OSS の話題を報告することを目標とし、実験対象地域の近隣地域に対して Linux/OSS 普及活動を行うことを課題とする。本実証実験で行う研究会、実践事例発表会などは実験終了後もコミュニティとして継続した活用が行われることを目標とする。

(4) 3つのサポートモデルの調査や研究

Linux PC を導入した対象地域の特性を生かし、サポートモデルを図 2 の 3 つに分け調査、研究を行う。

- 指導員サポートモデル
- 自主運用サポートモデル
- 企業サポートモデル

それぞれのサポートモデルを導入フェーズ、初期運用フェーズ、運用フェーズの3段階に分け実証実験期間中の運営を行う。運用フェーズではサポート体系及びサポート対応をサポートモデルによって変え、検証を行う。3つのサポートモデルともコスト、工数、問い合わせの調査、考察を行い3つのパターンでビジネスモデルの構築を行う。さらに教育機関が導入の際に最適なサポートモデルを選択できるようにサポートサービスを調査、評価、構築を行う。

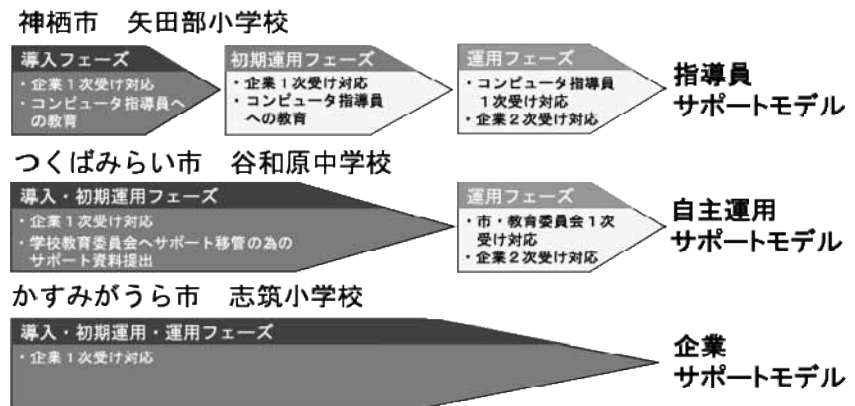


図 2. サポートモデル 3 種

3. 評価検討

3. 1 実用性評価

本プロジェクトでの Linux/OSS 環境における実用性に関しては、IT 活用の進んでいない地域における Linux/OSS 環境の実用性を検証することを目的としている。その観点から、実用性の評価を行う。

- a. 授業実践報告からの分析、活用傾向の調査
- b. 教務遂行のための OSS デスクトップ環境の調査、検証、評価
- c. アンケート、ヒアリングによる分析、評価
- d. サポート問合せによる分析、評価
- e. コスト評価
- f. セキュリティ評価

その他に3つのサポートモデルの調査、検証、コスト試算を行い、OSS のビジネスサポートモデルの構築を行う。教育機関がサポートモデルを選択できるようにサポートサービスを調査、評価、構築を行う。

3. 2 OSP パッケージ

2年間の実証実験の成果物および本年度実証実験において活用したソフトウェアツール集(または、ソフトウェア一覧)、校務利用ソフトウェアツール集(または、ソフトウェア一覧)、サーバ/ネットワーク設定スクリプト、本年度実証実験の実践事例集、授業映像を最終納品に含む(無償公開されているソフトウェアのみ含める)。

4. おわりに

2年間のつくば市の実証実験などの経験から、教育機関の Linux/OSS 導入にはベンダのサポートを受けられる環境を作ることが必要であると考えられる。またベンダが広く Linux/OSS のサポートビジネスに参入することにより、これらの流れが Linux/OSS 普及を齎す大きな要因のひとつとなると考えられる。現在の機器導入から長期サポートまでを一括で行う調達方式では、導入時に高価なライセンスが必要となる場合は特に、この費用が各フェーズに振り分けられ高価になってしまふ。しかし、導入やサポート費用を各フェーズに分け発注/受注を行うことで、導入費用、導入直近の初期サポート、安定運用時のサポート費用は別々に試算することができるのではと考える。フェーズ毎に異なるベンダが対応もしくは得意分野のフェーズを担当するベンダとがチームを組むことで、サポートビジネスの間口が広がり、費用も抑えた形でサポートを行うことができるのではないかと予測でき、更にサポートが充実すれば学校教育現場における Linux/OSS の活用も広がるものと考えられる。本年度の実証実験において少しでも児童・生徒のマルチプラットフォーム環境実現への足がかりとなれる様、チーム一丸となって取り組んでいきたい。